JWFファンド2021 完了プロジェクト 概要

3. 女学生たちによる雨水貯留容器トレーニングと設置（ウガンダ）

- 実施団体：　SORAK DEVELOPMENT AGENCY（#002）
- 実施地：　ウガンダ Mubende県 Lusalira交易センター
- 費用：　1,738ドル（JWFファンド1,500ドル、団体138ドル、受益者100ドル）
- 受益者数：　5,000人（男性1,000人、女性1,000人、子ども3,000人）
- 実施地の水問題：
  ウガンダの農村部に住む人々は、安全でない水や限られた衛生設備、不十分な手洗い習慣等により、水系感染症に罹りやすくなっていた。多くの人々に基本的な水へのアクセスや基本的な衛生設備がなく、石鹸を使って手を洗えなかった。コロナによって施設封鎖や、水と消毒液が不足する中で、子どもたちは遠くまで水を探しに歩かなければならなかった。

プロジェクト実施前：
水源から安全ではない水を汲む女学生

プロジェクト実施後：
製作した雨水貯留容器から給水する女学生

- 主な活動内容 ：　村から選ばれた女学生20人への、雨水貯留容器（500リットル）づくりと販売ノウハウ等による起業家体験研修、10世帯への雨水貯留容器設置、対象地域内での宣伝カーによる手洗い重要性の広告5日間、水質検査。
- 特長（持続性）：　女学生たちへの雨水貯留容器の製造技能伝搬と、起業家体験研修。
- 実施団体説明：　2003年の設立から社会的に弱い立場にある女学生や若者、子どもたちの生活向上に取り組む。
  2020年コロナによる封鎖をきっかけに、50人の女学生を対象として雨水貯留容器を製造とWASHによる起業家研修プロジェクトを実施した経験をもとに申請した。

JWFファンド2021 フォローアップ結果

3. 女学生たちによる雨水貯留容器トレーニングと設置（ウガンダ）

【現状】

<雨水貯留容器>

よく稼働していて、受益者たちに給水していた。大きな損傷はなく、水栓が壊れたときはすぐに補修された。

<維持管理>

受益者は施設を正しく使用していた。水栓が壊れた時は実施団体に相談をして、助言どおり部品購入して取り換えた。実施後の施設に大きな問題はなかった。

雨水貯留容器を管理していたのは、一家の世帯主でここでは年長の母親や寡婦だった。管理上困ったことがあれば実施団体や、製作した女学生たちと連絡を取っていた。雨水貯留容器はそれほど維持管理に金銭や人的資源を必要としないが、わずかながら使用料を取って補修費用にあてている。補修には製作した女学生たちが呼ばれていた。ただし、補修に呼ばれた女学生たちにとって雨水貯留容器は自分の財産でもあるので、労務代をとっていない。

【変化】

このプロジェクトにより、受益者の保健衛生に次の変化が生じた。

- 清浄で安全な水が常にある。
- 水があることによって、受益者は手洗い使用後に石鹸で手を洗えるようになった。
- 水があることにによって、受益者は衣服や家庭の食器を常に清潔にできるようになった。

水系感染症の削減、特に腸チフスが減ったと報告された。

【その他】

・ 実施団体はこのプロジェクトのあと、地域給水プロジェクトを手掛けた。総額2万ドルで、深井戸の水を3万リットル貯水槽までポンプ圧送して、16カ所の給水地点まで自然流下で給水するものであった。最近のプロジェクトとして、2023年オランダのアルベルト・シュバイツアー財団の資金によって雨水貯水容器を10個設置する計画がある。

・ 実施団体にとって最大の問題は資金で、水道事業の需要はあり人材や行政の支援も得られると見込んでいる。そこで、Nakayima spring water Ltdという会社を立ち上げ、資金を募集している。この起業によって、実施団体は清浄で、安全で、手ごろな費用によって地域に根付く持続的な水供給システムの専門家になったと説明している。

2023年10月に調査した雨水貯留容器

家庭における雨水貯留容器の重要性について語る受益者

祖母の雨水貯水槽について語る孫たち

JWFファンド2021 フォローアップ結果

3. 女学生たちによる雨水貯留容器トレーニングと設置（ウガンダ）

現場からの声（抜粋）

Propella Nyirasabaさん （46歳、村落指導者）

ご支援いただいた実施団体、その代表、ご寄付をいただいた日本水フォーラムに深く感謝いたします。実施団体が共同体に働きかけ、促進してくださったので我々の保健衛生はたいへん進歩しました。雨水貯留容器のご支援をいただいた家庭では、どのように清潔さを保つと良いか、水系感染症からも安全を保つと良いか、実施団体からご指導を受けてきました。以前は腸チフスが本当にありふれたことでしたが、実施団体の活動後は診療に行く人数が減りました。特に水系感染症に関しては、衛生状態が改善したといえます。しかしながら、まだマラリアでは不健康な状態といえます。いまだに蚊帳なしで寝ている人もいます。

このプロジェクトによって、雨水貯留容器の持ち主はいくらかの所得源ができたことになります。実際のところ、まだ雨水貯留容器の数はわずかでなので挑戦し続けなければなりません。この共同体では雨水貯留容器などをまだ数百と必要としているのですが、残念ながらプロジェクト予算枠内にとどまっているのです。

Scola Kulugendoさん （42歳、受益者）

この雨水貯留容器の水を使っています。この水は飲み水や食べ物の料理に使います。清浄で安全だから大切に貯めています。この水を無駄にしないよう、家畜や鶏には池の水を汲みにいって与えています。このご支援と、実施団体と、私たちにこの水をもたらした実施団体へのあらゆる方のご支援を嬉しく思います。この雨水貯留容器の唯一の欠点は少し小さいことで、乾季が通常の1か月よりも長く続いたら空になって以前のように困ってしまいます。

WASH研修を受けてから、家のトイレの近くに小さな手洗い容器を置いて、トイレに訪れた人は誰でも手を洗えるようにしました。これも全て実施団体の研修で学んだおかげです。実施団体は、トイレの後に手洗いをしないことの危険性を伝えました。病気にかかったり、胃が痛くなってそれが下痢や腸チフス、赤痢などにつながっていったりするようなことでした。

このプロジェクトの後、珍しい雨水貯留容器が家にあると話題にするお客様がいらっしゃるようになりました。子どもたちは池まで長い距離を歩かなくても良くなりました。食事、水、茶は準備して時間通りにいただけるようになりました。時には水を近所の方に売って、砂糖、塩、石鹸など家でほしいときに使うお金にしています。

＜参考＞ 他にも雨水貯留容器ユーザーから、次のような要望や声があった。

- 今回の支援には感謝しているが、地域のリーダーたちはもっと多くの支援を希望している。
- 水栓の補修部品は、どこで購入できるのか知りたい。
- 自己資金で購入できる人たちは、もっと容量が大きい雨水貯留容器を製造可能か知りたがっている。
- この地域以外で、まだ支援のない地域へとプロジェクトを拡大できないか。